



高等学校



2

理解を深めてユニセフ募金

東京都立飛鳥高等学校・定時制

報告者 加藤 知子 先生

本校は定時制であり、さまざまな背景を持った生徒があり、年齢構成にもばらつきがある。単位制という仕組みのため、

一人ひとりが異なる時間割で授業を持っており、普通校のようなホームルーム中の人間関係が形成されにくい。

そこで、本校では以下の3つの形態から好きなものを選んで文化祭に参加する仕組みをとっている。

文化祭実行委員会（生徒会中心）

文化祭全体の運営・全体企画の実施

講座

自分の受講している講座に関係ある研究発表

クラブ

日ごろのクラブ活動の成果発表

有志

グループで自由に内容設定できる（模擬店など）

今年度は、募金活動のみをおこなった前年度の反省を生かし、ユニセフについての理解を深めてもらった上での募金活動が望ましいと考え、講座参加の生徒がユニセフについての展示発表を担当し、それとタイアップする形で生徒会が募金活動をおこなった。全校的に参加意識を持てるような形態でおこなうことにした

のである。

具体的な活動は、文化祭1週間前の準備期間を利用して、ユニセフ資料を使い、世界の子どもの現状とユニセフ活動について視覚的にわかりやすい形で模造紙にまとめた。それを文化祭当日に会場入り口付近にパネルとして展示した。

また、文化祭当日は、文化祭用金券売

り場付近に展示されたパネルの脇に募金箱を置き、文化祭に訪れた様々な人に関心を持ってもらうと同時に募金をしてもらった。

定時制ということで準備のための時間が限られている中で、講座に参加した生徒たちは自主的に取り組み、ひとりひとりのユニセフへの理解は深まったと思う。